

「感動」という名のセンサーを求めて

浅井 慶 弑

〈愛知県立昭和高等学校 〒467 名古屋市瑞穂区白砂町3の43〉

高等学校の天文部活動の手伝いと、その過程を通し、天文学の研究者の裾野作りのために、微力ながら行動し、感じたことをのべます。また、15年間の民生委員、児童委員としての活動とその体験の中から、高齢化時代における生涯学習の場のあり方とその作成、そして3世代交流の場を、天文学の教育の場において作り、それを通して、「感動する心」を持ちつづけられるようにしたいと思います。

色々なセンサーが開発され実用化されている現在、「感動」という名のセンサーが人々の心に欠落していると思います。人々は物事に感動し、そのよろこびに感謝をして、生きることが少なくなってきました。

私は現在愛知県立昭和高等学校において、「天文」を通して、生徒達と接しています。現代の生徒達は、報道や出版物など色々なメディアを通して、宇宙の姿に接する機会は多くあり、私達の学生時代に比べて、情報量も多く、精確な映像にも接することが出来ます。しかし、では現在の生徒達はより多くの感動に接しているのかというと、そうとはいえないことが多々あります。そこに我々のなすべき事の一つがあります。昭和高校における「天文学に対する開放講座」は、平成5年度で3年目をむかえることになりました。平成4年度の受講者は、40余名で年齢は19歳より75歳までの社会人の方々でありました。この開放講座は県民の方々の多様化した、そして高度化した学習ニーズに応え高等学校の教育機能を地域社会に開放し、知識、技術及び教養に関する学習機会を提供するために県教育委員会や各高等学校の協

力のもとに開講されたもので天文関係では県下唯一の企画であります。また当昭和高校は平成3年に創立50周年をむかえ、その記念事業の一環として天体観測装置（天体ドーム、150mm屈折望遠鏡、コンピュータ設備など）が更新、完成し、それを利用して開放講座が実施されました。理論の実習及び演習から実際の観測、そしてその体験をもとに、もう一度理論を確認するという過程をとおして、宇宙への出会いをつくり、体験していただくことを目的として実施しました。

観測に際しては、在校生の天文部員にも協力を依頼して、自らもてる力を発揮させて奉仕の機会を与えました。生徒達もよく協力をし、受講者の方々からも喜んでいただきましたが、生徒達もその受講者の方々のよろこびを「肌」で感じ、平素の「していただく感謝」より「させていただく感謝」に気づいたようです。奉仕のよろこびを味わったようです。又、宇宙というすばらしい対象物をテーマに、高齢者の方々とその孫に当る生徒達や又親子間に相当する社会の人間関係において話題ははずみ、過去より現在へ、そして未来へと三世代の交流の場が自然にもつことが出来ました。「昔は、この地域でも天の川がはっきりみえたぞ」と高齢者の方々の話に、生徒達も、このあり

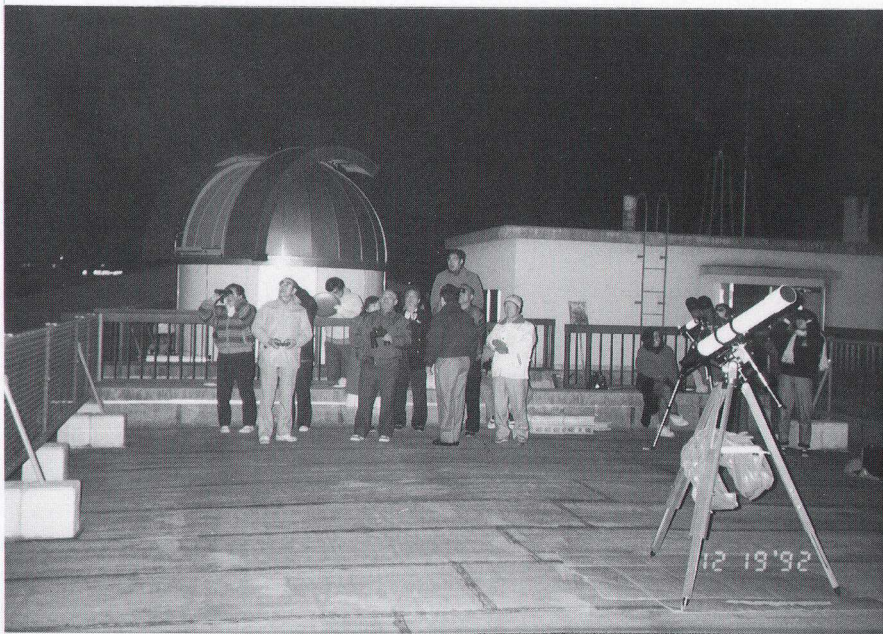
Keiichi Asai: Having a sensor named gratitude.—The most important thing is to be impressed.

がたい地球の時の経過による環境の変化を感じ、我々も地球環境保全の話題へと話は広げることができました。又生徒達もいつもは「教えられること」にのみなれていた自分達が自らもっている力を発揮して社会人の先輩に奉仕をすることができ「教えるために、又わかっていただくために」もっと努力をしなければならないことに気がついたようでした。現在は、核家族化がすすみ三世代で話し合う機会が極めて少ない時に大自然を対象物として、三世代の人間がその大自然の前で語りあかすことは、大変すばらしい風景でありました。高等学校の開放講座は単に開かれた学習の場を社会の人々に提供するのみならず、それに携わる講師、そして協力してくれる生徒とが、共に学ぶ場所であると感じた次第です。

今年度は、昭和高校として一般社会人対象の講座とともに、地域の小学校、中学校の生徒達や地域住民の方々に対して、短期の公開講座を数コースもつと同時に観望会を実施していきたいと考えています。超大型望遠鏡の開発も大切なことであり大変期待されることでありますが、それと同時に身近なところに宇宙に接することのできる望遠

鏡や観測設備をととのえ、だれもが宇宙へもう一度目をむける機会を作ることが必要であると考えます。そのためには、学校施設など公共施設により一層の機器の設備と拡充が必要であると考えます。これからの高齢化時代には、高齢者の社会参加と、高齢者の生きがいの場所をつくることは大事なことであります。学習の場所の提供も大切ですが、高齢者が自らの知恵を後継者に伝承する場所を作ることも大切であり、その場所を提供し、維持するために我々は天体観測という場所を通して努力する必要があると考えます。

小望遠鏡でも、自らの手で探し求めて観測した月面や土星のリングなどは、すばらしい映像をみながれている現代人にも、その感動はくらべものにならない力をもっていると思います。観測することを通して大宇宙の美しさに感動し、そして心の感動のセンサーを研ぎ澄ましていくことができる機会を、多くの人達にもっていただけるように努力していきたいと思います。この感動は、物理に対する「真理を追求する喜び」を揺り起こすことになると思います。今の生徒達の物理ばなれを取り戻すことにもなります。又大宇宙に接する感動





により、大宇宙の背後にある「みえない力」に気がつくのです。我々は、日々「お陰様です」という言葉をよく使います。しかしこの「お陰様」という感覚は色々の事象が当然おこるという「当たり前のこと」という感覚からはおこらないのです。ありがたくその事はおこり、ありがたくその物に、時空に自分があるという感覚から「お陰様です」という心がおこるのです。もう少し丁寧にいえば、全宇宙の全勢力の瞬時もたゆまぬ大きな力のお陰様でということです。その大きな力を、「大自然の力」という人もありますでしょうし、又「神」という人もあり「他力」という人もありましょう。その「大きな力」によって私どもは生かされているのです。他力本願とは、この他力に気がつき、他力により生かされていることへの感謝の心だと思えます。宇宙に目をむけることにより、我々はその「大きな力」の存在に気がつくのです。無意識ですごしていることが意識的に確認するようになるのです。すなわち「無意識の意識化」です。すべての事柄に対して、この「無意識の意識化」こそ、感動のセンサーをみがき、心を豊かにして、人生を全うできるのだと考えます。

地域環境保全の問題にしても宇宙に目をむけ、その中で再度地球へ目をもどせばこの様なすばらしい星は、今のところまだ他の天体には確認されていないことに当然気がつきます。

このすばらしい地球をすばらしいままで維持し、後世に受けつぐことは現代人のつとめであり、

だれの目にもたやすく理解のできることであります。外国旅行の後、皆、日本のすばらしさに気がつき、口にするのと同じことなのです。天文学の普及は、地球上の生きとし生けるものへの愛の育成でもあるのです。

私どもも日々努力をし、すこしでももてる力をふやし社会に奉仕したいと考えます。その学習の場として、大変ありがたかったのが、昨年（平成4年）8月に名古屋大学理学部において実施されました公開セミナー「天文学最前線」です。そこへ参加させていただき、新しい最前線の天文学に接し、ありがたく講義をうけさせていただきました。又貴重な実験施設の見学や実習そして、貴重な資料をいただき、その後の私どもの活動に使用させていただきました。又、その感動を高校の生徒や開放講座の受講者の方々へお分けすることができました。今後ともこの様な学習の場が各地で開催されることを希望します。

最後に高校における物理の履修者の減少など高校生の物理離れの原因は、大学受験に起因するとの声もありますが、高校においては、「物理はいかに興味深い学問であるか」をすばらしい熱意とそして努力でもって教育に当ってみえる先生方に多々お会いします。高校は一人の社会人として完成された人間形成の場としてとらえるべきであると、先師ものべてみえます。入試に際して物理を学ぶことが有利か否かで判断するのではなく物理学がいかに魅力のある学問であり、又、各面から考えて、「感動のセンサー」を研く為にも、学ぶべき「ありがたい学問」でありということ、天文学をとおして、伝えたいと思えます。「何が大切か」という根本に立ち、「自ら何をなさねばならないか」を考え、与えられた今ある条件で何をなすことが出来るか、そして何を強化していくかを考え、微力ではありますが努力していきたいと存じます。

今後とも各先生方のご指導をお願い申し上げます。